



No. 23
2008 Spring

含松山
臨南寺

「チュンダにいいなさい。『あなたの料理は仏陀の最後の食事になったのだから、すぐれた功德があります。あなたの未来には幸せがあるでしょう』と」
死を前にしながら、チュンダの後悔の心を取り除こうとされたのです。

特集

お釈迦様ものがたり ①6

悟りの人よ、永遠なれ



自らの命を三か月間と決めたお釈迦様は、残された日々を伝道に「いやし」ます。お釈迦様の一行に食事や宿所となる林を提供したいという有力者は後を絶ちません。そうした布施が大きな功德となるからです。

臨終の地クシナガラへ

ある村で、鍛冶屋のチュンダから食事の施しを受けました。その料理を見たお釈迦様はチュンダに「いいなさい」

「きのこの料理は私だけにしなさい。残ったら土の中に埋めなさい」

それを食べたお釈迦様はひどい下痢に襲われ、下血とともに、激しい痛みを耐えたと記されています。それでも

お釈迦様は「クシナガラに行こう」と阿難にいいました。その途中、小川にさしかかったお釈迦様は水を求めました。しどろもどろと水が濁っていました。

ところが、阿難が小川を見ると水が濁っています。「この水は濁っています。もう少し向こうに清らかな川があります」

しかし、お釈迦様は水を求められず。阿難が仕方なく小川の水をすくう

と、濁っていたはずの水が透き通っていました。

沙羅双樹の下で

クシナガラに着くと、お釈迦様は阿難にいいました。

「サーラの双樹の間に寝床を用意してください。横になりたいのです」

サーラの樹は、ラワンの仲間です。お釈迦様は、用意された寝床に頭を北に、右脇を下に、足と足を重ねて横たわりました。そのとき、サーラの花が満開になり、お釈迦様の体に降ってきました。天上からも花々が降り注ぎ、美しい音楽の調べが聞こえてきました。

チュンダも臨終の場に駆けつけ、自責の念に駆られながらお釈迦様を心配そうに拝んでいました。お釈迦様は阿難にいいました。

最後の言葉

お釈迦様は阿難に語りかけます。

「私が死ぬとあなたは『もはやわれらの師はいない』と思うかもしれませんが、そのように考えてはなりません。私が説いてきた教えと戒律が、あなたの師になるのです」そして、

「すべては過ぎ去るのです。修行者たちよ、怠ることなく修行に努め、励みなさい」
それが、お釈迦様の最後の言葉でした。この言葉ののち、お釈迦様は深い禅定に入り、涅槃に至りました。そのとき大地震が起こり、人々は恐れおののきました。

涅槃とは、「ニルヴァーナ」の音訳で、「吹き消す」という意味です。火が消え失せるように煩惱が消滅し、解脱されたのです。經典には、二月十五日であったと記されています。次回でこの物語も終わりといたします。

毎年よ 彼岸の入りの 寒いのは 正岡子規

春分を中日として、その前後の三

にいたること、つまり悟りに達する

日間にわたる一週間を「お彼岸」と呼びます。お寺では彼岸会を行い、先祖供養が営まれます。檀信徒の方々は、彼岸会に参加し、ご先祖のお墓に家族で参り、家では団子やおはぎを作つてご先祖にお供えします。

お彼岸は、インドや中国にはなかった行事です。春分の日は、昼と夜の時間の長さがちょうど同じになり、仏教の「中道」の教えにかなう日といえます。また、太陽が真西に沈む時期でもあり、西方浄土を礼拝するのにもふさわしい日ともいえます。そんなところから日本人の心に定着したのだらうといわれています。

ただインドにはない行事ですが、「彼岸」という言葉はまぎれもない仏教用語で、サンスクリット語の「パーラミター」（波羅蜜多）の漢訳「到彼岸」を略した言葉です。

到彼岸とは、向こう岸＝仏の世界にいたること、つまり悟りに達することです。そのために実践しなければいけない六つの徳目が「六波羅蜜」です。布施（人が喜ぶことをする）、持戒（してはならないことをしない）、忍辱（苦しいことを辛抱する）、精進（希望に向かって努力する）、禪定（心を安定させる）、智慧（真実を見極める目をもつ）——この六つの教えを、忠実に実行するのが、本来のお彼岸の一週間なのです。

臨南寺では、三月二十日（祝）に彼岸会写経会を行い、二十三日（日）午後一時から彼岸会施食会を修業いたします。彼岸会施食会では、亡くなられた方にお経を上げ、先祖供養の法要を行います。当日ご都合の悪い方は、事前ご回向をお受けいたしますので、お問い合わせください。

臨南寺では、三月二十日（祝）に彼岸会写経会を行い、二十三日（日）午後一時から彼岸会施食会を修業いたします。彼岸会施食会では、亡くなられた方にお経を上げ、先祖供養の法要を行います。当日ご都合の悪い方は、事前ご回向をお受けいたしますので、お問い合わせください。

寺南景 臨百



晋山結制の角塔婆

昨年十一月二日、三日の二日にわたり、臨南寺では、晋山結制法要が営まれました。実に五十七年ぶりのことです。この法要は、大澤正道新住職のお披露目の儀式として催されました。

そのとき、本堂の正面に建てられたのが、高さ3メートルの角塔婆。四角柱の卒塔婆です。卒塔婆は、サンスクリット語のストウパーの音訳で、お墓や仏塔のことです。日本では蘇我馬子が供養塔を建てたのが卒塔婆の最初といわれています。後に、五輪塔が墓標や供養塔として用いられはじめると、木の柱や板の上部に

刻み目を入れただけの角塔婆や板塔婆が作られるようになりました。角塔婆は、お寺での大法要の際に建てられます。本堂から見て、正面には「大円鏡智」と書かれています。大円鏡のような欠けることのない完全な智慧を表しています。その下には、法要名などが書かれています。

左面には、「平等性智」と書かれています。これは、自他の差別をしない智慧を表しています。その下には、「妙法蓮華経如来神力品」の経文が書かれています。右面には、「成所作智」と書かれています。成すべきことを成し遂げる智慧、つまり衆生を救済する智慧を表しています。その下には、「参同契」の言葉が書かれています。

裏面には、「妙觀察智」と書かれています。これは対象を十分観察する智慧を表しています。その下には、建立年月日と建立者の名前が書かれています。



映画『原爆の火』を

ご覧になってください

三月のお彼岸が近づいてまいりました。

今年の冬は、雪の降る日も多く、寒さが例年以上に厳しかったように思います。「寒さ暑さも彼岸まで」という言葉もあります。少しずつではありますが、春の気配を感じる今日この頃です。

ところで、『原爆の火』という映画が、今年の六月頃公開されるそうです。ご自身が被爆者というお寺の住職や末期がんに冒された高齢の僧侶が、「悲惨な原爆の悲劇を二度と起こさないように」と祈りを込めて、アメリカのサンフランシスコからニューメキシコ州まで二千五百キロを行脚したドキュメンタリー映画です。

広島に投下された原子爆弾による火災の火を採取して六十二年間も灯し続けてきた福岡県星



臨南寺 住職

大澤正道

野村の原爆の火。その火を、世界で初めて原爆の爆発実験が行われたニューメキシコ州のトリニティーサイトへ戻し、消し去ることで、破滅の輪を断ち切り、不幸を終わらせるために行脚したのだそうです。

全人類共通の願いである核兵器廃絶をめざすアメリカ西海岸縦断の行脚の旅。とても意義深い重みのある映画だと思います。皆様もぜひご覧になっていただきたいと思っています。

お彼岸にお写経を
なさいませんか？

3月20日

「般若心経」の二百六十二文字を写すお写経。一文字書くたびに仏様一体を刻むのと同じ功德があるといわれます。あなたも、故人の冥福を祈り、先祖を供養し、浄福を授かりませんか。お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。随時受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。

なぜ、甘茶を
お釈迦様に注ぐの？



4月8日

お釈迦様は誕生されてすぐに七歩歩いて天地を指さし、「天上天下唯我独尊」と宣言したといわれます。このとき神々は花びらを散らし、八大竜王は甘露の雨を降らせて祝福したと記されています。花祭りは、このような情景を再現して祝うもので、江戸時代に始まりやがて、子どもの健やかな成長と開運を祈る子育て信仰も加わったようです。

マトリ合同法要に、
どうぞ

5月11日

がっしょう園マトリは、お墓の継承者がいなくても、永代にわたって供養していただける永代供養墓です。合同法要には、マトリ会員でなくても参加していただけます。関心のある方は、この機会にご参加ください。

臨南寺行事予定
(三〜五月)

春季彼岸会施食会

三月二十三日(日)本堂にて
午後一時〜午後三時

(受付は二時三十分まで)

亡くなられた方にお経をあげ、先祖供養の法要を行います。

釈尊降誕会(花祭り)

四月八日(火)午前九時〜
本堂にて

お釈迦様誕生の日を祝う法会です。お釈迦様が誕生されたルンビニー園には、美しい花が咲き乱れていました。それを模して花御堂を作り、その中に右手で天を左手で地を指さした誕生仏を安置して、甘茶を注ぎます。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。

マトリ合同法要

五月十二日(日)午後時〜

本堂で落語を聞いた後、マトリに移り、読経が流れる中、冥福をお祈りしたり、生かされていることに感謝を捧げたりして過ごします。

『正法眼蔵随聞記』の 読書会

まもなく四月から
始まります



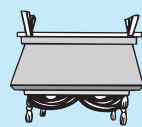
曹洞宗の開祖・道元禪師に、影のように
仕え、後に永平寺二世を継いだ懷辨禪師が、
折に触れて聞いた師の教えを書き留めたも
のが、『正法眼蔵随聞記』です。

その『随聞記』を読みやすく今の言葉に
訳した文庫本があります。それを皆さんと
一緒に読んでいきたいと思えます。道元禪
師の『正法眼蔵』の精神に触れるチャンス。
お気軽にご参加ください。

● 第二回 四月十二日(土)午後三時～四時
以後毎月第二土曜日午後三時～四時

墓苑寺務所に 掛け軸を展示しております

臨南寺に代々伝わる寺宝の書や掛け軸を、
皆様にも見ていただけるようにと、このたび、
墓苑寺務所の一角に展示コーナーを設けまし
た。毎月、二作品ずつ展示していく予定です。寺
務所にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



境内に相撲部屋が 来ています



大阪春場所が三月九日から二十三日まで十五日
間、大阪府立体育館で行われます。臨南寺には、
昭和四十六年から鏡山部屋が来ています。今年で
三十七年目になります。

鏡山部屋は、元横綱の柏戸が創設した部屋で、元
関脇多賀竜らを育てました。平成八年、親方が急
死、多賀竜の勝の浦親方が鏡山を襲名し、部屋を
継承しました。

部屋には三人の力士がいます。鏡桜はモンゴル
出身の二十歳。三段目二十八枚目です。竜聖は親
方の長男で二十一歳。三段目八十一枚目です。鏡
竜は埼玉県出身の二十七歳。序二段です。

若いふたりの力士は、「多賀竜二世」の実現に向
けて、関取を目指し
ています。臨南寺の
境内でお相撲さんを見
かけたら、応援の
声をかけてあげてく
ださい。そして、府
立体育館に出かけて
声援を送りましょう。
(三段目の取り組み
は午前十一時半から
始まります)



保育園で餅つきをする鏡竜(左)、竜聖(中央)、鏡桜(右)



墓苑をご利用の皆様へ お願い

● 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使

用後は必ず元の場所へお戻しください。

● お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は
一切責任を負いかねます。

● ペットを墓苑内に連れて行かないでください。

● トイレにオムツを流さないでください。

● お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

編集後記

先日来、マスコミをにぎわせている中国産冷凍ギョーザの問題。一番びっくりしたのは39%という日本の食品自給率の低さでした。少々高くても地元の野菜や米を見直す時期なのかもしれません。安さだけで飛びつく私たちにも責任がありそうです。ご感想をお寄せください。(M)

お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

毎月第一土曜日

午前六時半～ 本堂にて

※一月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
写経料・千円

*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」23号

平成20年3月

編集・発行： 稜伽林「ほ～っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com